

諫早湾干拓調整池に発生したアオコの調査に関する質問主意書

平成二十年四月三日提出（提出者：大串博志）

平成二十年四月十一日答弁書受領

質問第二五七号（答弁第二五七号）

諫早湾干拓調整池では、造成以来しばしばアオコが発生してきたが、特に昨年から本年にかけてはかつてない規模で長期間にわたり増殖し、周辺住民のみならず、営農予定者や漁業関係者に大きな不安を与えている。そこで今後、出来る限り科学的なアオコ対策を検討していくために、以下質問する。

一 先般農水省は、昨年十一月二十六日に調整池におけるアオコの調査を行い、少なからぬマイクロシスチンを検出したことを明らかにした。この十一月二十六日の調査以外にも調査分析を行っているか。行っているのであれば、調査日、調査地点、分析方法および分析結果如何。

（答弁）調整池におけるマイクロシスチンの調査については、農林水産省としては、平成十九年十一月二十六日及び平成二十年二月十八日に実施している。

平成二十年二月十八日における調査は、中央揚水機場取水地点付近及び小江揚水機場取水地点付近においてそれぞれ二地点ずつ、計四地点の調整池の水を採取し、高速液体クロマトグラフ法により、マイクロシスチンのうち、国内の湖沼で通常検出されるマイクロシスチンLR、マイクロシスチンRR及びマイクロシスチンYRの分析を行った。その結果、それぞれの濃度は四地点とも測定可能な値（マイクロシスチンLR及びマイクロシスチンRRにあつては一リットル当たり〇・〇五マイクログラム、マイクロシスチンYRにあつては一リットル当たり〇・一マイクログラム）未満であった。

二 調整池でマイクロシスチンが検出された以上、諫早湾への排水中にもそれが含まれているものと推測されるが、湾内の二枚貝や動物プランクトン等に蓄積されたマイクロシスチンの調査分析は行ったか。行っているのであれば、調査日、調査地点、分析方法および分析結果如何。

（答弁）諫早湾内の二枚貝や動物プランクトン等について、農林水産省としてマイクロシスチンの蓄積に係る調査分析は行っていない。

三 マイクロシスチンなどアオコ毒素が農作物に及ぼす影響、および水生生物特に魚介類、動植物プランクトンに及ぼす影響にはどのようなものがあるか。海外文献調査結果も含めて政府はどのように認識しているのか。

（答弁）農林水産省として、これまでのところ、国内においては、アオコの発生した湖沼の水を農業用水として利用することで農作物への被害が発生したとする事例は承知していない。

また、アオコに由来するマイクロシスチンが水生生物に及ぼす影響の評価について確立した見解が示されているとは承知していない。